

いがおえエ

食欲の秋です。秋の味覚を添えて♪

ニックネーム:

本誌へのメッセージ:



ほっとニュース

秋の花フェス & 演芸会 開催のお知らせ

日時: 11月9日(木)

9:30 ~ 11:00 *秋の花フェス
13:30 ~ 15:30 *演芸会

*午前の「秋の花フェス」は
近隣の保育園から園児に来ていただき一緒に花植えをしたり、遊戯を披露してもらいます。



*午後の「演芸会」は
各病棟やデイケアがそれぞれに演し物を発表します。企画や準備から患者さまと職員が力を合わせ、普段とは違う一面を見せながら最優秀賞を目指し熱演する姿は一見の価値あり!です。



きりとり

●外来診療担当医表

		月	火	水	木	金
午前	初診	交代制	交代制	交代制	交代制	交代制
	再診	高山	中澤	林	西浦	鈴木
午後	再診	中瀬	野村	金原	中瀬	大井
				宇佐見	山村	
午後	再診	河合	西浦	宇佐見	高山	大井
			野村		山村	
			金原			

担当医は都合により変更になる場合があります。ご了承ください。

理念 ささえあい、ともに生きる

基本方針

- 患者さまや地域の皆さまに、信頼され選ばれる病院づくりを行います。
- 患者さまが地域で快適な生活が送れるよう、積極的にサポートします。
 - 患者さまの人権を尊重し、きめ細かく配慮します。
 - 患者さま一人一人の治療プランに添った医療を行い、一日も早い家庭・社会復帰を目指します。
- 地域におけるメンタルヘルスに積極的に取り組みます。
 - 医療の質向上に向けて日々研鑽を積みま。

編集後記

今号は「病院祭」などをお伝えしました。さて、広報委員のスタッフは「Live with すずか」の名の通り、皆さんと一緒に創っていきたくて考えております。本誌へのご感想やご要望・ご意見がございましたらお気軽にご連絡ください。

TEL・059-382-1401(代表) FAX・059-382-1402
Eメール・info@skh.miekosei.or.jp

三重厚生連 鈴鹿厚生病院

第51号

2017.10月

Live with すずか

地域の皆さんのお役に立ちたい情報誌



第28回

病院祭を開催します!

今年のテーマ

「地域交流」



平成29年10月14日(土)9:30~15:30 第28回鈴鹿厚生病院 病院祭を開催いたします。今年のテーマは「地域交流」です。バザー、食品模擬店、亀レースなどのアトラクションは勿論のこと、エアー遊具や白衣体験など新しい催しも企画しました。よさこい、近隣園児の遊戯やベリーダンス、稲生高校ブラスバンドによる演奏、就労継続支援事業所の出店など、外部の機関の方々にもご協力いただき、病院祭をさらに盛り上げていただきます。食べて、見て、体験して、地域の皆様と一緒に楽しい病院祭を創りたいと考えております。ご家族、ご友人お誘いあわせの上、ぜひお越しください!お待ちしております!



心の健康セミナー 誌面版

心の健康セミナー誌面版は「こころ」に関するテーマに沿って
毎号連載していくコーナーです。今号は新しいスタッフを紹介します。

テーマ ご挨拶

本年7月1日付で教来石部長の後任として、事務部長に就任致しました。鈴鹿厚生病院には、約11年ぶりの勤務となり、以前共に仕事をさせていただいた方々と再び仕事ができるという嬉しさと同時に、長らく精神科病院から離れていたことによる状況の変化に大きな不安を抱えながらの赴任でした。ですが、中瀬院長、西浦名誉院長、福田看護部長をはじめ多くの職員の皆さんに温かく迎えていただき、本院の現状から病院が抱える課題、近隣病院との連携体制、行政の施策や将来的な病院像まで少しずつではありますが、日々勉強させていただいております。

医療を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いており、平成30年度からの第7次医療計画では、多様な精神疾患等に対応できる医療連携体制の構築に向けて、「良質かつ適切な精神障がい者に対する医療の提供を確保するための指針」を踏まえ、役割分担、連携の推進、医療機関の医療機能を明確化する、としております。



スマイリー バトンリレー

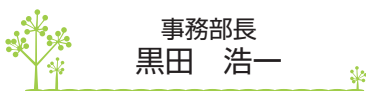
西3階病棟

西

3病棟は女子精神療養病棟です。「医療チームとの連携を図り、患者や家族のニーズに沿った安全で安心できる医療・看護サービスを提供します」を基本方針に掲げています。院内で唯一スタッフも全員女性の病棟です。病棟出入り口の四季折々変わるディスプレイや、ホールの飾り付けなど、女性ならではの細やかな気遣いをもって長期入院の必要な患者さまの心身のケアを行なっています。レクリエーション、作業療法、疾患教育にも積極的に取り組んでいます。その中の活動の一つとして、下肢筋力アップのために、回廊となっている病棟の構造を利用し、患者さまリクエストの音楽を流しながら毎日楽しくウォーキングを行なっています。気分転換にも体力向上に効果的と好評を得ています。患者さまの“リハビリ（回復）”を目指して日々の生活が豊かになるよう患者さま・ご家族・スタッフがお互いに協力して目標達成出来るように支援しています。



事務部長
黒田 浩一



本院としても今まで以上の医療連携の強化、高度な専門性を持った人材の育成等が求められ、精神科領域における医療環境は今後、更に大きく変化していくことが予想されることから、しっかりと将来を見据え、皆様のお力をお借りしながら、健全で安定的な病院運営を目指して懸命に努力する所存です。

今後も、鈴鹿・亀山地区の精神科基幹病院として、医療の質向上に向けて日々研鑽を積み、地域の皆様から信頼され、選ばれる病院となるよう微力ではありますが、誠心誠意努めさせていただきましますので、今後とも皆様のご指導、ご支援の程、よろしくお願い致します。

夏フェス 2017

鈴鹿厚生病院の夏と言えば、「夏フェス」です。今年も8月3日（木）に当院グラウンドにて盛大に開催されました。

日本列島に接近中の台風と雨雲の動向に、毎日ドキドキハラハラしながら会場準備を進めました。夏フェス当日は、実行委員の熱い思いが届いたのか、雨の心配もなく、今回から新しくなった櫓（やぐら）と共に無事開催できることとなりました。

本院のよさこいチーム「樂舞（らんまい）」のオープニングとともに、盆おどり・模擬店・夜店など盛大に開幕しました。今年は沖縄をテーマとした各部署対抗による大ぼんぼりコンテストも行われ、みごとな牛車を作り上げた東1階病棟が優勝しました。また、グラウンド西側に作られたプールでは、患者さま制作による流し灯籠に火が灯され、とても幻想的な雰囲気を醸し出していました。

他にも休憩時間には、バンド演奏、夜店では、こども達に人気のグッズも並べられ好評でした。地域の方々への、広報活動の甲斐もありたくさんの地域の方々の楽しめる姿も見られました。

最後に打ち上げ花火が有終の美を飾り、29年度の夏フェスが無事に事故なく閉幕となりました。



協力施設の ご紹介



相談支援事業所

りんく

相談支援事業所「りんく」は、障害者総合支援法の改正により平成24年4月に開設されました。主な業務は、福祉サービスの利用調整＝『計画相談』であり、福祉サービスを利用する方で契約を結んだ方が支援の対象となります。業務には相談支援専門員があたります。こういった事業所は、8月1日現在、鈴鹿・亀山市内に17あり、ほとんどの事業所が3障がい（知的・身体・精神障がい）と難病の方に対応しています。りんくも同様です。

福祉サービスとは

- ・介護給付・・・施設入所、グループホーム、ショートステイ、ヘルパー、生活介護（障害者デイサービス）など
- ・訓練等給付・・・就労移行、就労継続支援A型・B型、自立訓練など

計画相談の理念としては、障がいをもつ方が地域で自分らしく暮らしていくために、さまざまなサービスを活用して頂けるよう提案し、エンパワメントの視点をもって側面的にサポートをするというものです。福祉サービスに限定せず、多様な相談をできるだけお受けしていますが、相談支援事業所が単独で地域生活を支えることは到底不可能であるため、地域の医療・福祉・行政・その他民間事業者など、関係機関の皆さまとの連携に努めています。

りんくとして大切にしていることは、自己満足の支援にならないように、ご本人ではなく支援者の安心のためにサービスで囲い込んだりしないように、ということです。相談支援専門員の手出し、口出しが、果たしてその方の思い描く未来、目標とする生活に本当に必要かどうか、実は良かれと思って手を出したことが、その方の自立を阻むことになってはいないか・・・等々、動く前には一旦立ち止まってよく考えるようにしていますが、いつも自問自答と苦悩は絶えません。力不足を痛感する毎日ですが、利用者の皆さまが地域でたくましく楽しく暮らしている様子を拝見すると、私たちも力を付けています。

『ベストよりベターを探せ』『いつも自分を振り返れ』、遥か(?) 昔の実習生の頃に頂いた助言を念頭に置き、常に初心に帰り日々研鑽に努めています。

information

社会福祉法人ジェイエイみえ会 相談支援事業所りんく

〒510-0226
鈴鹿市岸岡町589-6 TEL 059-392-7777



作業療法 作品紹介

作品：おとなの塗り絵

作者のコメント

葉っぱや花びらを工夫して塗りました。
他にもバラ、つばき、あさがおなどたくさん塗ったのでよかった。

